

令和2年度 一般入学試験（第Ⅲ期）試験問題

国 語

注意事項

1. 解答用紙にはマーク用と記述用があります。解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ①氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ②空欄
解答用紙（マーク用）「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
 - ③番号欄
受験番号を左詰めで記入し、さらに解答用紙（マーク用）には番号欄の下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が26ページあります。（空白ページ2ページ含む）
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10

と表示のある問いに対して3と解答する場合は、(例)のようにマークしなさい。記述式問題は記述用解答用紙に記入しなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

— ① —
次の語句問題に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、

③は

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 形見 | 1 | 容貌 | 2 | 人格 | 3 | 遺品 | 4 | 格言 |
| ② | 沿革 | 1 | 変遷 | 2 | 沿線 | 3 | 革命 | 4 | 流動 |
| ③ | 偏屈 | 1 | 率直 | 2 | 意志 | 3 | 機微 | 4 | 頑迷 |

問二 次の言葉の対義語を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、

③は

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 総合 | 1 | 未知 | 2 | 既存 | 3 | 分析 | 4 | 結果 |
| ② | 緊張 | 1 | 剛直 | 2 | 弛緩 | 3 | 拡大 | 4 | 不安 |
| ③ | 寡黙 | 1 | 幸福 | 2 | 静寂 | 3 | 沈着 | 4 | 饒舌 |

問三 次の文の中には、漢字の表記上の誤りが含まれている可能性がある。また、一文の中に、複数の誤りが含まれている可能性もある。①から⑤の文の誤っている箇所の合計数を1から4の中から選びなさい。解答番号は、

- ① 秋の定期試験で、国語の成績が急上昇した。
- ② 昨晚、自宅の最寄り駅で自転車の鍵を紛失した。
- ③ 留意したにもかかわらず、書類の転機ミスを指適された。
- ④ 今日、企業にとって法令準守は不可欠であると戒められた。
- ⑤ 遺失物の受領のため、職場と自宅の間を二往復した。

- 1 4箇所
- 2 3箇所
- 3 2箇所
- 4 誤りなし

問四 次の四字熟語の意味を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は、

①は

8

②は

9

③は

10

① 荒唐無稽

- 1 全然関係のないことで騒ぎ立て、ことを大きくすること。
- 2 言葉や説明に根拠がなく、ばかっていること。でたらめであること。
- 3 荒々しい態度で、身だしなみをまったく整えていないこと。
- 4 やることなすことが雑であり、まったく話にならないこと。

② 金科玉条

- 1 大事なものは何か、優先順位をしっかりとわきまえて行動すること。
- 2 金銀財宝を蓄え、守り、家門繁栄を何よりも大事なこととすること。
- 3 ぜひとも守るべき大切な法律・規則。絶対的なよりどころとなるもの。
- 4 金銀ばかりを尊ぶあまり、他の価値ある物事を見過ごしてしまうこと。

③ 隠忍自重

- 1 我慢して、軽率な行動をしないこと。慎重に振る舞うこと。
- 2 敵意を堪えながらも、自分に有利なようにことを運ぶこと。
- 3 悪意を表面に出さずに、自分の味方を着々と増やすこと。
- 4 忍者を隠しておくように、大事な物事を秘密裏に進めること。

空白ページ

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

放火の多発

しかし、江戸ほど火災が頻発した都市はほかにはない。木造建築物の集合という点では日本国中の都市は全く同じだが、幕府チヨツカツ地の大坂や京都と比べても江戸の火事の多さは突出している。

この異常なほどの火事の原因は放火^①だった。これを a に証明する資料は少ないが、江戸の火災記録から出火地点、飛び火、レイショウの方向、その日の風向きなどを調べると放火の疑いが強い火事が非常に多い。たとえば、ある火事がほとんど鎮火した時刻に、それとは無関係の場所に飛び火するような例もみられる。

放火といってもこれは愉快犯的なものではない。不景気で世の中に b が漂うようになると、いざことなく火が出ることが多かった。これには町の暗黙の了解のようなものがあつたと考えられる。というのは、火事で需要が生まれて景気が上向くからだった。

江戸十大火事の火元をみると、寺院が三件、火の気のない空き家や材木置き場が二件、武家屋敷が二件、町地^{ちよつち}が二件、地震が一件となつている。空き家などが火元の火事は放火だと想像がつくが、三件と最も多い寺院の火災も放火の疑いが強い。

放火犯人を出した町は町ぐるみでその責任を問われた。これは放火に限ったことではなくて、江戸時代の場合は、町人（この場合は地主）の不法行為の責任はその所属する町の町人全員が連帯して負うシステムだった。この点については前章で説明したが、犯人が地主階級ではなく長屋住まいの者であつた場合も、店借や店子を監督するのが町人の役目だったため、町は連帯責任^③を免れることはできなかった。

吉宗の侍講^{じしやう}だつた室鳩巢^{むろきやうせう}も「献可録^{けんかろく}」の中で、江戸では火付盗賊が多く、犯人を見つけても当局に通報するケースはほとんどないと述べた上で、その第一の原因は a 困窮^{こんきやう}、さらには刑罰が生ぬるいからだとしている。

つまり、火事の結果が景気刺激となり上から下まで金回りがよくなって万人が幸福になるのに、犯罪人が町内から出てしまえば

元も子もなくなる。こうなると、どこの町内からも犯人が出ないような工夫をする必要があった。これは、談合だとか謀議で^④口裏を合わせるなどといった^⑤ヤボなことではなく、「なんとなく」寺院を火元にしてしまうことだった。

寺院は寺社奉行の支配下で、一方、町地の火災の責任を糾問するのは町奉行だった。町奉行には、犯罪捜査に手慣れていた与力・同心といった専任スタッフがいたが、寺社奉行は専任スタッフを持たず、^⑥ドウインできるのはその分野には素人の自分の家来だけだった。だから寺院の「せい」にすれば、火災の責任がうやむやになることが多かった。つまり、放火の実行からその後始末まで「見えざる手」がはたらいていた訳だったと考えられる。

江戸の消防組織には幕府直営の^⑦定火消、企業の消防隊ともいえる大名火消、公営消防の町火消があった。これらが互いに競争しながら破壊消防を行ったが、組織が違っても消防要員の^⑧実態はたいして変わらなかった。最初の火消しは戦国時代の火付け^⑨放火のプロを組織したというし、勝海舟が江戸城開城をめぐって「子分持ちの火付け四八人が江戸を火の海にする」と西郷を脅かしているところをみても、江戸の消防組織は相当自在に火事をコントロールできたことがわかる。

(中略)

火事は景気刺激策

幕藩体制の世の中では、不景気になっても、現在のように財政投融資^⑩を行ったり建設国債^⑪を発行して公共事業を起こしたりといった発想はなかった。

ところが、手っ取り早く、しかも確実に景気刺激に結び付くのが火災だった。日本橋あたりの大店の旦那方には、火事になったら綺麗に燃やせと喧しくいっているが、これには中途半端に焼けたのでは町が潤わないという理由があったからである。出入りの職人が全部潤うには綺麗さっぱり燃えることが必要だった。

普通はこのように火災が^⑫頻発すれば、都市は衰退するものだが、焼け太りではないが火事のために江戸は発展し百万都市にま^⑬でなった。江戸での火災の効用は大きかった。仮に景気刺激のための放火だったかどうかを保留してたとしても、経済理論の面だ

けから結果だけを見ると、江戸の火事は有効需要を発生させ、江戸の経済成長のもとになっていた。

全国的にみて江戸時代の貸家の償却期間はおよそ六年だったが、江戸では二年が普通だった。I、三年間焼けなければそれは家持ちの丸もうけだった。長屋の大部分は雨露がしのげればよい位の造作だった。落語で「壁に釘を打ったら隣の部屋に突き出した」という話もあるが、それが長屋（貸家）の実態だった。土蔵造りは例外としても、普通の一戸建て家屋はルイシヨウを前提として焼屋と呼ばれたほどだった。

現在の東京名物「ウサギ小屋」もそうだが、当時の家屋は木と紙で出来ていたから非常によく燃えた。いずれにしろ江戸の家屋のほとんどは不動産ではなくて消耗品で、ストックとしての不動産が焼ければ大損害だが、消耗品が燃える分には消費拡大―景気拡大がもたらされるといふ面が強かった。

だから、江戸市民は火事を喜んだ。特に宵越しの銭を持っていないような下層階級に属する人々は火事で潤ったので、火事には「世直し」と呼ばれる効果があった。これは江戸だけの話ではなかった。天保の大飢饉に苦しんでいた大坂で、天保八年（二八三七）大塩平八郎の乱があった。乱の鎮圧後、大坂の庶民は彼を「大塩様」といつてあがめたが、これは乱によって大坂市街の約五分の一が焼失したため、俄かに復興景気が到来したためだった。

II、全く予期できない地震火災だった安政地震を知らせる瓦版には「世直し」と表現されていた。火を付けければ「世直し」になり、地震で火が出れば「世直し」になった。『海舟座談』（明治二九年九月十七日）では、次のような記述がある。

（前略）今年は、十一月頃から北風だ。スルト、東京には度々火事があるよ。貧民は火でも放さなければ支えきれまい。オレはその防ぎはしてある。（別邸の近傍の貧民に恵恤せらる）

警視総監でないから、東京全体の事は、どうとも仕方がない。（後略・傍点筆者）

このように海舟は、江戸・東京の火事の多くが貧民救済の目的を持った放火だったことと、自分の屋敷を放火から守るために近

隣に住む貧民に現金・物資などを施^エしておいたから心配ないという意味のことを言っている。しかし、東京全体で放火を止めさせるには自分は警視總監でもないから不可能だと半ば諦めてもいる。

以上は c の効果だったが、江戸市街地にとっても防火帯や道路拡張などの市街地再開発の効果もあった。火事で焼失すると都市のスクラップ・アンド・ビルトが進み、周辺部に市街が拡大し江戸の範囲が広がる作用をはたした。

明暦の大火の場合も、これを契機として過密化した中心部が再開発され、大川（現在の隅田川）を越えて本所・深川まで市街が拡大している。具体的には、現在の神田鎌倉河岸付近から谷ノ蔵（矢ノ蔵、現中央区東日本橋）に移った。そして主として日本橋川沿岸に分布していた幕府の米蔵などの倉庫群が浅草・本所・深川に移転し、浅草の米蔵や札差街が形成された。 III 神田北寺町や八丁堀の寺町の大部分の寺院も倉庫群と同じ浅草下谷、本所、深川や三田方面の、当時の江戸近郊に移った。

（鈴木浩三『資本主義は江戸で生まれた』）

注1 侍講：君主の側に仕え、学問を講義すること。また、その人。

注2 財政投融资：政府が金融市場から調達した資金などを財源として、民間では困難な大規模・超長期プロジェクトの実施や、民間金融では困難な長期資金の供給を可能とするための投融资活動のこと。

注3 建設国債：国の資産を形成するものとして、公共事業費、出資金及び貸付金の財源に充てるために、国が借り入れを行う際に発行する債券のこと。

問一 傍線ア「頻発」、傍線イ「雨露」、傍線ウ「俄かに」、傍線エ「施して」の読み方として、もっとも適当なものを次の1から5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、アは 、イは 、ウは 、エは

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | 1 | せんぱつ | 2 | さんぱつ | 3 | ひんぱつ | 4 | はんぱつ | 5 | ふんぱつ |
| イ | 1 | あめろ | 2 | あまつゆ | 3 | うろう | 4 | あめつゆ | 5 | あまろ |
| ウ | 1 | にわか | 2 | われかに | 3 | ひそかに | 4 | しめやかに | 5 | おごそかに |
| エ | 1 | きようして | 2 | したくして | 3 | しこうして | 4 | ほどこして | 5 | せこうして |

問二 傍線あ「チョッカツ」、傍線い「ルイシヨウ」、傍線う「ヤボ」、傍線え「ドウイン」の漢字として、もっとも適当なものを次の1から5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、あは 、いは 、うは

えは

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| あ | 1 | 直括 | 2 | 直割 | 3 | 直結 | 4 | 直轄 | 5 | 直角 |
| い | 1 | 累消 | 2 | 墨消 | 3 | 類焼 | 4 | 涙焼 | 5 | 涙消 |
| う | 1 | 野暮 | 2 | 野墓 | 3 | 野募 | 4 | 野簿 | 5 | 野慕 |
| え | 1 | 動因 | 2 | 道引 | 3 | 動員 | 4 | 導引 | 5 | 導因 |

問三 傍線①「放火」と同じ構成の熟語を次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 国営
- 2 貸家

- 3 放出
- 4 雷鳴
- 5 速記

問四 傍線②「江戸時代」とあるが、A群「江戸時代前期の小説の名前」とB群「その小説の作者または編者の名前」を、次の1

から5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号はA群 、B群

A群【江戸時代前期の小説の名前】

- 1 小説神髓
- 2 浮雲
- 3 日本永代蔵
- 4 玉勝間
- 5 曾根崎心中

B群【その小説の作者または編者の名前】

- 1 十返舎一九
- 2 二葉亭四迷
- 3 本居宣長
- 4 近松門左衛門
- 5 井原西鶴

問五 から に入る語としてもっとも適当なものを、次の1から5の中からそれぞれ選びなさい。

解答番号は 、 、

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| a | 1 | 間接的 | 2 | 公式的 | 3 | 地理的 | 4 | 立体的 | 5 | 直接的 |
| b | 1 | 疎外感 | 2 | 既視感 | 3 | 閉塞感 | 4 | 門外感 | 5 | 違和感 |
| c | 1 | 経済面 | 2 | 歴史面 | 3 | 政治面 | 4 | 心理面 | 5 | 対人面 |

問六 傍線③「免」を用いた熟語として正しくないものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 免会
- 2 放免
- 3 罷免
- 4 免疫
- 5 免役

問七 傍線④「口裏を合わせる」の意味として、もっとも適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 同じ事柄を逆の面から言うこと。

- 2 心にも思っていないことを言うこと。
- 3 相手の計略をさらに出し抜くこと。
- 4 言うことと考えていることは別であること。
- 5 複数の人々が内々に主張を一致させること。

問八 傍線⑤「たいして」と同じ品詞の語を、次の1から5の傍線を付けた語の中から選ひなさい。解答番号は

- 1 放火の疑いが強い火事が多かった
- 2 需要が生まれて、景気が上向くからだった
- 3 火災の責任がうやむやになることが多かった
- 4 火事を通報するケースはほとんどない
- 5 綺麗さっぱり燃えることが必要だった

問九 から に入る語の組み合わせとして、もっとも適当なものを次の1から5の中から選ひなさい。

解答番号は

- | | | | | | | |
|---|---|-------|----|------|-----|--------|
| 1 | I | ところが | II | ところで | III | ならびに |
| 2 | I | したがって | II | しかし | III | また |
| 3 | I | そのため | II | けれども | III | しかしながら |
| 4 | I | その結果 | II | だが | III | それゆえ |
| 5 | I | ただし | II | ところが | III | および |

問十 傍線⑥「造作」の使い方として正しくないものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 両親から頼まれていた隠居所を造作した。
- 2 知人から顔の造作が良いとほめられた。
- 3 新しく設けた茶室の造作には特に凝ってみた。
- 4 会計を造作することで、黒字があるように見せかけた。
- 5 複雑な文様など、手の込んだ造作が確認できる。

問十一 傍線A「江戸の火事の多さ」とあるが、江戸時代に火事が多かった最大の理由を筆者はどのように考えているか。筆者の考えとして、もっとも適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 大火災を引き起こすことで、世間を騒がせて、それを楽しむ犯罪が流行していたから。
- 2 寺院が火付盗賊を匿っていたことに加え、寺社奉行は犯罪捜査に手慣れていなかったから。
- 3 勝海舟が放火のプロである子分持ちの火付四八人に指示して、江戸を火の海にしたから。
- 4 当時の家屋は木と紙で出来ていたため、非常に燃えやすく、消しにくかったから。
- 5 不況下の沈滞したムードが、有効需要を生み出す放火を引き起こしたから。

問十二 傍線B「火事には『世直し』と呼ばれる効果があった」とあるが、なぜか。筆者の見解として、もっとも適当なものを

次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

31

- 1 消防組織の雇用が増え、失業者がそこに吸収されることで、庶民の所得と消費が増えたから。
- 2 火事で不景気になると、江戸幕府が街道建設などの大規模な公共工事を行ったから。
- 3 火事は復興需要を創出し、江戸の経済成長の原動力となっていたから。
- 4 火事の発生頻度が家屋の償却期間を超えることで、家主層が利益を得ていたから。
- 5 大火災が発生するたびに、貧民救済を目的として現金・物資の施しが行われていたから。

問十三 傍線a「困窮」を比喩的に表現している部分を、文中から十五文字以内で抜き書きしなさい。解答は記述解答欄へ

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

舞踊史を研究する者は、思想家や文学史家や美術史家に^①激しく嫉妬する。音楽史家に対しても。

文字で書かれたものは、たとえ二四〇〇年前のプラトンの著作だって、自分で読み、研究することができる。美術にしても、一万年以上のラスコーの洞窟画を自分の眼で見ることができる。音楽だって、最古の楽譜は紀元前まで^②遡るから、太古の調べを自分の耳で聴くことができる。それに比べて、昔の舞踊は悲しいくらいにわからない。

舞踊は人類とともにあった、つまり、人間は人間になったときから踊ってきた、といわれる。これはたぶん本当だろう。山田耕筈は^A大正五年、自作の舞踊詩の解説に、『言語』、それは可成り広く用ゐられて居る表現の手段であり乍ら、最も表現能力の浅いものでございます。私共は然し幸にも、『言語』の生れる前から、『音』を持ち『運動』を持つて居りました」と書いているが、ここで彼が言う「運動」とは舞踊に他ならない。舞踊が言語よりも古いことは確実だろう。

舞踊は人類とともにあったということは、逆にいえば、踊るのは人間だけだということである。動物は踊らない。舞踊というのは生きるために^③必須のものではない。動物は、すべてがしっかりと遺伝子情報に書き込まれているから、そういう無駄なことはしないのである。丹頂鶴の求愛ダンスも蜜蜂の8の字ダンスもたんなる比喩、つまり「ダンスのように見えるもの」にすぎず、鑑賞者である人間にとってはダンスに見えようと、^④見られている鶴や蜜蜂にとってはダンスではない（たぶん）。

うれしいにつけ、悲しいにつけ、人間はそれをごく自然に身体で表現したにちがいない。だが、どんなふうにも身体を動かしたのか、それがわからない。近接ジャンルである音楽と比べてみても、音楽ならば、バッハの曲もヴィヴァルディの曲も、私たちは（たぶん）作曲当時とほとんど同じ響きを聴くことができる。だが、なんとも悲しいことに、舞踊はほんの数十年前の振付もわからないのである。

音楽には楽譜がある。楽譜が残されているからこそ、レコードが発明されるはるか以前の曲でも復元することができる。そもそも作曲家はたいいてい(そうでない場合もあるが)楽譜という形で作品を発表する。演奏者はその楽譜によって作品を現実化する。

舞踊にも「舞踊譜」(ダンス・ノーテーション)という、楽譜に相当するものがある。すでに一七世紀フランスではかなり精密な舞踊譜が考案されていた。ところが、舞踊譜によって記録されている作品は驚くほど少ない。ごくたまにしかないのである。

これは楽譜と舞踊譜とが、似て非なるものであることによる。右に述べたように作曲家はたいいてい楽譜で作品を発表するが、舞踊譜を用いて舞踊作品を創作する振付家はいない。ではどうやって作品をつくっていくかといえば、生身の人間、すなわち自身あるいはダンサーを使って振り付けていくのである。舞踊譜は、できあがった作品を記録するために開発されたものであって、創作の手段ではない。舞踊譜に記録するというのは、楽譜を用いないジャズとかいわゆる未開部族の歌を採譜する作業みたいなものである。

(略)

冒頭の話に戻ると、私たち舞踊史研究者はつねに、苛立ちというよりむしろ底知れぬ悲壮感を抱いている。よくわからないものを相手にしているからである。

I、ワスラフ・ニジンスキーという^⑥不世出のダンサーがいる。彼が国際的に舞台で活躍していたのは一九〇九年からおよそ十年間である。映画はすでに発明されていたから、記録しようと思えばできたはずであるが、ニジンスキーの映像は^⑦まったく残されていない。写真はあつたが、「動くニジンスキー」を見ることはできないのである。

ニジンスキーが数年間所属していたバレエ・リュスというバレエ団は、バレエ史上最も有名なバレエ団である。ディアギレフを団長として、一九〇九年から二九年まで活動していた。当時、バレエといえばバレエ・リュスというくらい、甲を風靡したバレエ団だった。II、このバレエ団の映像もまったく残されていない。時期的にはじゅうぶんに記録可能だったにもかかわらず。先に触れた舞踊譜も残されていない。

バレエ・リュスは欧米各地を巡演する、いわゆるツアーリング・カンパニーで、いわばその日その日の公演をこなすだけで精一

杯で、映画を撮ったり舞踊譜に記録したりする余裕がなかったのである。

だが、理由はそれだけではないような気がする。先日、新国立劇場にバレエを見に行ったら、劇場内にテレビ・カメラが五台入っていた。てつきりNHKで放映されるのだろうと思っただが、隣にいた舞踊評論家から、あれは記録用なのだ教えてもらった。これは予算^⑧・ジュンタクな新国立劇場だからできることで、ふつうのバレエ団は小さなカメラ一台で記録しているだけだ。

文字というものは、メッセージを遠方まで、あるいは後代まで伝えたいという欲求から生まれたものだろう。それと比較すると、舞踊に関係している人たちは、どうも記録に対する情熱がさほどないように思われる。Ⅲ、残したくないと思っているのではないか、とすら感じられる。

実際、右に触れたディアギレフは映画というものを嫌っていたらしい。

わが国では、バレエのテレビ放映は、たとえばロシアなどに比べるとはるかに少ない。まだバレエ人口が少なく、視聴率が見込めないというのが一番の理由であろうが、踊っている側の人たちがあまりテレビで見てほしいと思っていないような、というよりむしろ見てほしくないと思っているような印象を受ける。

私たちは、ホームビデオが普及してからこのかた、テレビ番組というものは方が一見逃しても後で見られる^⑨と思つて安心してゐる。映画にしても、公開期間が終わつてもレンタル・ビデオ屋に行けば見られるような気になつている。

そうした風潮に真向から対立するように、ダンスの世界の人の間では、ダンスは一瞬にして消える芸術だという意識が強いようだ。

それともうひとつ、映像を通したダンスは生の舞台とはまったく別物だという意識も強いように感じられる。Ⅳ、ビデオに撮つて記録することにも、ビデオを売り出すことにも、消極的なのである。

そのときその場にいなかった人は永久に見られない、それでいいのだ、というわけである。これは舞台芸術全般にいえることで、家でソファに寝そべりながら見る、というわけにはいかないのである。

(鈴木晶『バレエ、消える芸術』)

問一 傍線①「激しく嫉妬する」とあるが、なぜ舞踊史を研究する者は嫉妬するのか。もっとも適当な理由を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 人間は昔から、踊ることによってのみ自分の感情を表現することができたのに、振付を記録しておく方法がなかったために、舞踊史研究が他の分野に比べてなかなか進まないから。
- 2 文字で書かれたものを研究対象とする他の研究分野に比べると、舞踊史の研究者が昔の舞踊について解き明かすためには、非常に複雑な作業が必要で、時間も手間もかかるから。
- 3 舞踊史研究は他の研究分野に比べて歴史が古いにもかかわらず、明確な研究手法が確立していないために、昔の舞踊についてほとんど何も解明できないままの状態が続いているから。
- 4 人類の歴史とともに歩んできた舞踊の歴史を研究することは、非常に意義のある重要なことなのだが、世間の人からはあまり理解されず、他の研究分野ほど脚光を浴びていないから。
- 5 舞踊史の研究者は形として残らないものを研究対象としているため、他分野の研究者のように実際に目や耳で昔の作品を確かめながら研究を進める、というわけにいかないから。

問二 傍線②「遡」を用いた熟語として正しいものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 遡遠
- 2 遡害
- 3 遡及
- 4 遡悪
- 5 遡成

問三 傍線③「必須」の使い方として正しくないものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 生きていく上で必須の条件
- 2 必須の経費を申し出る
- 3 大学生にとっての必須知識を得る
- 4 的確な情報の必須を感じる
- 5 受験に際しての必須科目

問四 傍線④「見られている鶴や蜜蜂にとってはダンスではない」とあるが、それはなぜか。もっとも適当な理由を次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 ダンスを踊ることの必要性がしっかりと遺伝子情報に書き込まれているのは、人間だけだから。
- 2 鶴や蜜蜂が何の目的でダンスを踊っているか、その真の意味を理解することは人間にとって不可能だから。
- 3 鶴や蜜蜂のダンスと呼ばれるものは、人間のダンスのような感情の身体的な表現手段ではないから。
- 4 鶴や蜜蜂には感情を表現する手段が他にもあるので、人間のようにダンスを踊らなくてもよいから。
- 5 鶴や蜜蜂は種の存続のために必死に踊っているのであり、娯楽のためにダンスをしているわけではないから。

問五 傍線⑤「似て非なるもの」とあるが、どのような点からそう言えるのか。もっとも適当なものを、次の1から5の中から選
びなさい。解答番号は

36

- 1 楽譜は文字に近いものを使って文字で表せない曲を書き残そうとするものだが、舞踊譜は文字とはまったく違う形態で舞踊の作品を後世に残そうとするものである点
- 2 文字で書き残せないものを別の形で残そうとしている点では同じだが、舞踊譜は作品の記録として用いられるものにすぎず、楽譜のような、作品の発表形式とはならなかった点
- 3 作曲家にとって、楽譜は仕事を書き残し、発表するための大切な表現手段であるのに対して、振り付け家が舞踊譜を使って作品を記録することはこれまでほとんどなかった点
- 4 作品を現実化するために有効な手段であることにはかわりないが、舞踊譜に記録された作品は精密すぎて、楽譜に比べるとあまり簡単には作品を再現することができない点
- 5 感情を表現するために創作される音楽や舞踊を記録しておくための唯一の手段である点は共通しているが、舞踊譜は生身の人間を用いて記録するために開発されたものである点

問六 から にあてはまるもっとも適当な語の組み合わせを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|----|------|-----|------|----|---------|
| 1 | I | さすがに | II | そこで | III | 必ず | IV | むしろ |
| 2 | I | そして | II | しかし | III | いっそ | IV | けれども |
| 3 | I | もつとも | II | そして | III | ともあれ | IV | そのため |
| 4 | I | たとえば | II | だが | III | むしろ | IV | だから |
| 5 | I | あるいは | II | もちろん | III | けっして | IV | にもかかわらず |

問七 傍線⑥「不世出」の意味としてもっとも適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 一部の人には知られているが世間的には有名でないこと
- 2 めったにこの世に現れないほどすぐれていること
- 3 時代を超えて世界中の人々から愛されていること
- 4 才能の豊かさが世間に認められず出世できないこと
- 5 地位や名声を捨てて俗世間と交わらずに生きること

問八 傍線⑦「まったく」と同じ品詞の語を、次の1から5の傍線を付けた語の中から選びなさい。解答番号は

- 1 運営および管理に責任がある
- 2 彼女は静かに話し出した
- 3 彼女は美しく装っている
- 4 海の大半は埋め立てられていた
- 5 彼はおそらく来ないだろう

問九 にあてはまるもっとも適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 万世
- 2 当世
- 3 永世
- 4 一世
- 5 処世

問十 傍線⑧「理由はそれだけではないような気がする」とあるが、筆者は他にどのような理由があると考えているのか。もっとも適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 舞踊にかかわる人間は、ダンスを一瞬で消えてしまう芸術だと考えており、作品を撮影した映像と生のダンスとは別物なので、実際に舞台を見に来た人にだけ伝わればよいと考えているから。
- 2 ふつうのバレエ団は予算が少なく、記録用として小型カメラ一台ぐらいしか準備できないため、公演のすべてを多角的に記録できないのであれば、いっそも記録しない方がよいと考えているから。
- 3 テレビやビデオなどの映像によって、家にいながらにしてダンスやバレエを見られるようにすることは、舞踊公演から人々の足を遠ざけることになってしまうと、舞踊関係者が考えているから。
- 4 舞踊に関係している人たちは、舞踊をテレビ番組や映画とは異なる舞台芸術だととらえているため、映像として記録しておくことは不可能だし、また記録する必要性もないと考えているから。
- 5 舞踊を鑑賞したいと思っている人は、音楽愛好者に比べるとまだ少数派なので、たとえ舞踊を映像として記録したとしても、それが活用されることはないと思われているから。

問十一 傍線⑨「ジュンタク」にあてはまるもっとも適当な漢字を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 順卓
- 2 潤沢
- 3 準巧
- 4 旬扱

問十二 傍線⑩「られる」と同じ意味で使われている語を、次の1から5の傍線を付けた語の中から選りなさい。

解答番号は

43

- 1 少しぐらいなら起きられるようになった
- 2 子どもが助けられて本当によかった
- 3 この子の将来が案じられてならない
- 4 近いうちに先生が帰ってこられる
- 5 この仏像は鎌倉時代のもものと伝えられている

問十三 傍線A「大正五年」とあるが、この頃活躍した作家に武者小路実篤、芥川龍之介、有島武郎らがいる。彼らと同時代に作品を発表した作家名を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 44

- 1 志賀直哉
- 2 尾崎紅葉
- 3 二葉亭四迷
- 4 上田敏
- 5 中島敦

問十四 舞踊の作品を産み出す一般的な方法について記述している部分を、文中から三十字前後で抜き書きしなさい。

解答は記述解答欄へ

(設問以上)

空白ページ